

10 製品仕様

準拠規格		
	IEEE 802.3 IEEE 802.3u IEEE 802.3af	10BASE-T 100BASE-TX Power over Ethernet
適合規格		
安全規格	UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1	
EMI 規格	VCCI クラス B	
電源部		
定格入力電圧	AC100 - 240V	
入力電圧範囲	AC 90 - 264V	
定格周波数	50/60Hz	
定格入力電流	2.0A	
最大入力電流	0.1A	
平均消費電力	3.1W (最大 8.6W)	
平均発熱量	11kJ/h (最大 31kJ/h)	
電源部 (PoE 受電)		
対応する給電方式	オ尔特ナティブ A/B	
PD のクラス	クラス 2	
環境条件		
動作時温度	0 ~ 40℃	
動作時湿度	80% 以下 (結露なきこと)	
保管時温度	-20 ~ 60℃	
保管時湿度	95% 以下 (結露なきこと)	
外形寸法 (突起部含まず)		
	190 (W) x 125 (D) x 37 (H)mm	
質量		
本体 アダプター	660 g 130 g	
スイッチング方式		
	ストア&フォワード	
MAC アドレス登録数		
	1K (最大)	
MAC アドレス保持時間		
	300 秒	
メモリー容量		
バケットバッファ	768Kbyte	

11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

0120-860332

携帯電話 / PHS からは：045-476-6218
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00
13:00～17:00

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましては、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/

0120-860772

携帯電話 / PHS からは：045-476-6203
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00
13:00～18:00

13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただくまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

● 製品について

製品名 (FS708-PD)、製品のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。



図 11 シリアル番号シール (例)

● 設定や LED の点灯状態について

- LED の点灯状態をお知らせください。

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。

● ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

14 ご注意

- 本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

- 弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。

- 弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2006 アライドテレシスホールディングス株式会社

15 商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

0120-860442

月～金（祝・祭日を除く）9:00～17:30

19 マニュアルバージョン

2006 年 2 月 Rev.A 初版

2006 年 7 月 Rev.B マグネット注記追加

2006 年 8 月 Rev.C 誤記修正



ファーストイーサネット・スイッチ

CentreCOM® FS708-PD ユーザーマニュアル

1 特長

- 10BASE-T/100BASE-TX ポートを 8 ポート装備
- PoE 受電機能をサポート (クラス 2)
- オートネゴシエーション機能をサポート
- MDI/MDI-X 自動切替機能をサポート
- ファンレス設計
- フローコントロール機能をサポート
- Half Duplex 時：バックプレッシャー
- Full Duplex 時：IEEE 802.3x PAUSE
- 最大 1K の MAC アドレスを登録可能
- ポートの通信状況が一目でわかる LED を装備

オプション (別売)

- 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J23 により壁面への設置が可能
- マグネット Kit XS によりスチール製の壁面への設置が可能 (1 セットで本機 2 台設置可能)

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社ホームページにてお知らせする予定です。

http://www.allied-tesesis.co.jp/



安全のために

必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物は入れない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ 油煙や湯気のアたる場所には置かない

火災や感電の原因となります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。本製品は AC100-240V で動作します。なお、本製品に付属の AC アダプターは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

付属の AC アダプター以外で使用しない
火災や感電の原因となります。必ず、付属の AC アダプターをご使用ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たご足配線などで定格を超えるで発熱による火災の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。ケーブル類やプラグの取扱上の注意：

- 加工しない、傷つけない。
- 重いものを載せない。
- 熱器具に近づけない、加熱しない。
- ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80% 以下の環境でご使用ください）
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュースを敷いた場所（静電気障害の原因となります）
- 腐食性ガスの発生する場所



付属品をえす



たご足禁止



プラグを抜く



傷つけない



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いにはいねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



お手入れには次のものは使わないでください

石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー類不可

4 各部の名称と機能

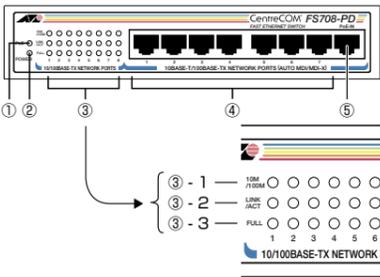


図1 正面図

① **PoE LED (緑)**
本体がPoEにより正しく給電(8番ポートより)されているとき点灯します。

② **POWER LED (緑)**
本体に電源が正常に供給されているときに点灯します。

③ **ポート LED**

③-1 **10M/100M LED (緑)**
ポートが100Mbpsで動作しているときに点灯し、10Mbpsで動作しているときは消灯します。

③-2 **LINK/ACT LED (緑)**
ポートと接続先機器がリンクしたときに点灯し、パケットを送受信しているときに点滅します。

③-3 **FULL LED (緑)**
ポートがFull Duplexで動作しているときに点灯し、Half Duplexで動作しているときは消灯します。また、コリジョンが発生しているときには点滅します。

④ **10BASE-T/100BASE-TX ポート**
UTPケーブルを接続するためのコネクタ (RJ-45) です。
ケーブルは、10BASE-T 接続の場合は、カテゴリ 3 以上、100BASE-TX 接続の場合はカテゴリ 5 以上の UTP を使用します。

⑤ **PoE 対応 10BASE-T/100BASE-TX ポート**
UTPケーブルを接続するためのコネクタ (RJ-45) です。IEEE 802.3af (Power over Ethernet) に準拠しており、同規格準拠の給電機器からの受電を行うことができます。
ケーブルは、10BASE-T 接続の場合は、カテゴリ 3 以上、100BASE-TX 接続の場合およびPoE機能を使用する場合は、カテゴリ 5 以上の UTP ケーブルを使用します。



図2 背面図

⑥ **DC ジャック**
ACアダプターのDCプラグを接続するためのコネクタです。

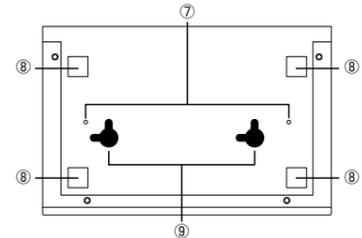


図3 底面図

⑦ **マグネットキット取り付け穴 (2箇所)**
オプション (別売) のマグネットキットを取り付ける穴です。

⑧ **ゴム足貼付位置 (4箇所)**
平らなところに設置する場合にゴム足を貼り付ける口型のくぼみです。

⑨ **壁面設置穴 (2箇所)**
本製品を壁面に設置するためのダマ穴です。

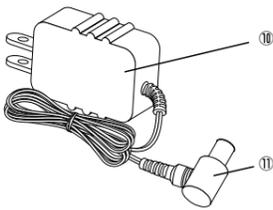


図4 ACアダプター

⑩ **AC プラグ**
ACアダプターを電源コンセントに接続するためのプラグです。

⑪ **DC プラグ**
ACアダプターを本製品に接続するためのプラグです。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 本体の上にものを置かないでください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- コネクタの端子にはさわらないでください (静電気を帯びた手 (体) でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります)。

設置

本製品は、同梱のゴム足やマグネットキットを使用してデスクトップなど平らなところや壁面に取り付けて使用できます。

● 平らなところに設置する

本製品をデスクの上などに設置して使用する場合は、同梱のゴム足を底面に貼ってご使用ください。ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をします。

オプション (別売) を利用した設置

本製品を壁面に設置するには、オプションの壁設置ブラケット (AT-BRKT-J23) を、スチール製壁面への取り付けにはオプションのマグネットキット (マグネット Kit XS) をご使用ください。

 **ヒント** マグネット Kit XS に同梱されているマグネットは4個ですが、本製品では2個使用します。

オプションの取り付けに関しては、オプション付属の取扱説明書をご参照ください。また、設置可能な方向については弊社 Web ページにてご確認ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

タッピングスクリューによる壁面への設置

本製品は、壁面設置用タッピングスクリューを使用することにより壁面に取り付けることができます。

 **注意** しっかりした壁に取り付けてください。手で押しただけでへこんでしまうような壁には取り付けないでください。

 **ヒント** 石膏ボード、ベニヤなど中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカーを併用してください。

● タッピングスクリューは M3 を使用してください。なお、本製品には、壁面設置用タッピングスクリューおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にご用意ください。

1. 設置場所と設置方向を決める

電源ケーブルおよび UTP ケーブルの接続が可能であること、また、LED の表示が監視可能であることを確認してください。

2. タッピングスクリューをねじ込む

タッピングスクリューの間隔が本体底面にある2箇所の壁面設置穴の間隔と同じになるようにタッピングスクリューをねじ込みます。このとき、ネジと壁の間を1mmほど残してください。

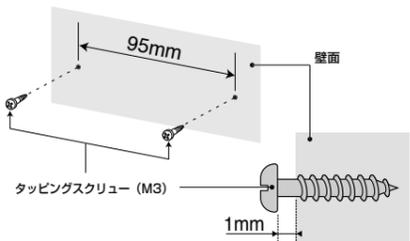


図5 タッピングスクリューの間隔

プラスチックアンカーの使用について

プラスチックアンカーを使用する場合は、きりやドリルなどで開けた穴に挿し込み、かなづちで軽くたたいて壁に埋め込んでください。

 **注意** 穴はプラスチックアンカーが入る程度の大きさにしてください。穴が大きすぎると落下の原因となります。

3. 本体を壁に取り付ける

壁から突き出ているネジ頭を本体底面の取り付け穴にさし込むようにして取り付けます。このとき、ネジ頭がスロットにはまるまで本体をスライドさせ、しっかり固定させてください。

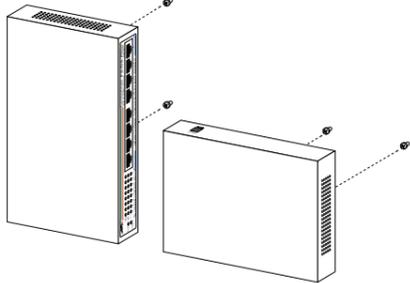


図6 壁面への取り付け

6 接続

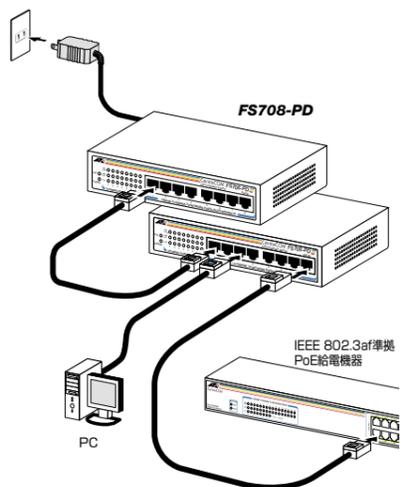


図7 接続図

ネットワーク機器の接続

● UTP ケーブルの接続

UTP ケーブルを使用して本製品と PC などの端末を接続します。本体の LAN ポート (RJ-45) に UTP ケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

 **ヒント** UTP ケーブルのコネクタ部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTP ケーブルのカテゴリー

10BASE-T 接続の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

● UTP ケーブルのタイプ

本製品は MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類 (MDI/MDI-X) を意識することなく、どちらのケーブルタイプ (ストレート/クロス) でも使用できます。

● UTP ケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは100m以内にしてください。

電源の接続 (本製品の起動)

本製品は、UTP ケーブルを IEEE 802.3af 準拠の PoE 給電機器に接続するか、同梱の AC アダプターを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

● PoE 給電機器との接続

本製品は IEEE 802.3af 準拠のクラス 2 の PoE 受電機器です。PoE 受電ポート (8 番) と同規格の PoE 給電機器を UTP ケーブル (カテゴリ 5 以上) で接続することで電源を受け取り起動します。

 **注意** 本製品には電源スイッチがありません。給電機器と UTP ケーブルで接続した時点で、電源が入ります。PoE による電源供給の場合、製品の起動/停止は給電機器側の起動/停止に影響を受けますのでご注意ください。

 **ヒント** ● 本製品はオルタナティブ A および B の給電方式に対応しています。
● PoE 機能を使用する場合は、8 線結線のストレートタイプ UTP ケーブルの使用をお勧めします。

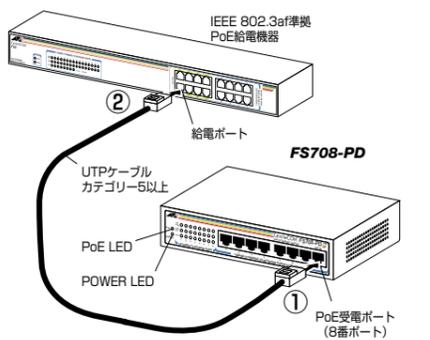


図8 PoE 給電機器との接続

1. 本製品に UTP ケーブルを接続する。

UTP ケーブルを本製品の PoE 受電ポート (8 番) に接続してください。

2. 給電機器に UTP ケーブルを接続する。

1. で接続した反対側を給電機器のポートに接続してください。電源が正しく供給されると、本製品が起動し、本体前面の PoE LED および POWER LED が点灯します。

● 電源コンセントとの接続

AC アダプターを使用する場合は、AC アダプターを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

 **警告** 本製品を使用する場合には、必ず製品に同梱されている AC アダプターをご使用ください。不適切なアダプターを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

 **注意** 本製品には電源スイッチがありません。AC アダプターを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

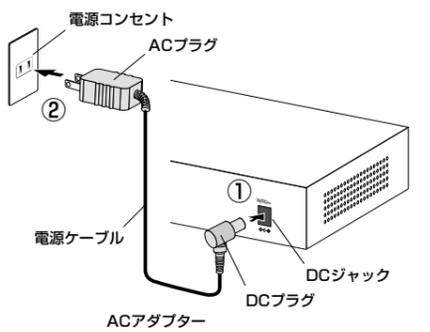


図9 ACアダプターの接続

1. 電源ケーブルを本製品に接続する

AC アダプターの DC プラグを本製品の DC ジャックに接続してください。

2. 電源ケーブルを電源コンセントに接続する (起動)

AC アダプターの AC プラグを電源コンセントに接続すると本製品が起動します。このとき、本体前面の POWER LED (緑) が点灯することを確認してください。

ケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、LINK/ACT LED (緑) が点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには、PoE の場合は、給電機器側の UTP ケーブル (図 8-②) を抜いてください。AC アダプターを使用している場合は、電源コンセントから AC プラグ (図 9-②) を抜いてください。

 **警告** 電源を抜くときには、本体側の接続を先に抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

 **ヒント** 本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

7 構成

本製品はスタンドアロンでご使用頂けるほか、下図のとおりカスケード接続でもご使用いただけます。

カスケード接続

本製品は MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類 (MDI/MDI-X) を意識することなく、どちらのケーブルタイプ (ストレート/クロス) でも使用できます。

 **ヒント** ● スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

● カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

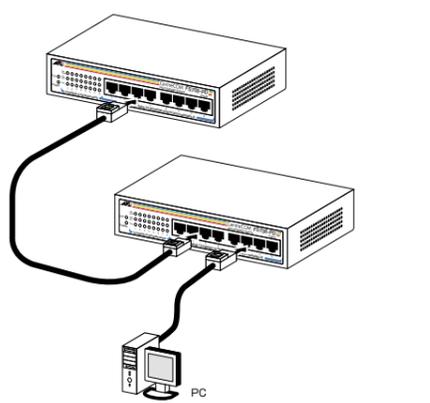


図10 カスケード接続

8 設定

通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器のポートの通信モードを Half Duplex に設定してください。

接続先ポート		FS708-PD
10M	Half	○
	Full	—
	Auto	○
100M	Half	○
	Full	—
	Auto	○

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

● POWER LED は点灯していますか?

POWER LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がなく正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

PoE 給電機器から受電している場合は、UTP ケーブルの状態、PoE LED の状態、および PoE 給電機器が正しく起動しているかについても確認してください。

● 機器を停止後、すぐに起動していませんか?

本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

● LINK/ACT LED は点灯していますか?

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

○ 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。接続先機器が障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

○ 正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

○ ケーブルの長さが制限を越えていないことを確認してください。

2 つのネットワーク機器の直接リンクを構成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています (ただし、クラス II のリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は 5m 以内としてください)。

○ ケーブルを他のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性があります。

○ UTP ケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくい (結線は良いが特性が悪い場合など)、他のケーブルに交換して試してみてください。

○ 接続先機器の通信モードを確認してください。

本製品の 10BASE-T/100BASE-TX ポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。